

「やめられないとまらない福音」

～神への情熱が溢れる信仰～

「それというのも、良い知らせを宣べ伝えても、別に私の名誉にはならないからです。 たとい、やめたいと思っても、やめるわけにはいきません。もしやめたら、全くみじめなことになります。それを宣べ伝えなかったら、私は災いに会います。」1コリント9章16節 [リビングバイブル]

萬平さんと福子さんがとうとう「まんぷくラーメン」を完成させました。世界で初めての画期的な食品が世に誕生した瞬間でした。そして、やめられないとまらない美味しく手軽なラーメンを自宅で食べられるようになりました。あんなに大変なご苦労があったことに本当に驚かされました。物凄いのは福子は何回も「これで完成ですね！」と聞いても、「いいや、まだまだこれからだよ」と答える萬平さんのこだわりというか、プロ魂というかには本当に感服させられました。だからこそ、世界で通じる「作品」とも言える即席ラーメンが生み出されたのだなあとしみじみと考えさせられました。

話しは変わりますが、「福音」「ゴスペル」という言葉は、新約聖書に初めて登場します。マルコ福音書の冒頭は「神の子イエス・キリストの福音のはじめ」と書き始められていますが、この福音によって人生を変えられたパウロは特別な体験を致しました。天におられるはずのイエス・キリストが光となって突然、彼の前に現れなさいました。そのときにパウロと共にいた者も何人かいましたが、彼らの人生は変えられず、パウロの人生だけが変えられました。福音はすべての人のためですが、その時はパウロにのみ示されました。

私たちの人生でも、主は働いてくださいましたが、家族全員にではなく、私たち個人に対してでした。そして、私たちにその与えられた福音を家族や他の人々に伝えるようにという目的がそこにはあります。しかし、伝えていくためにはしっかりと体験していく必要も感じます。

本日は松岡忠一郎兄のご葬儀を執り行います。奥様の清枝姉はこの教会の前進である戸倉集会の時に救われた初期の初期のメンバーです。その時から数十年間隣にいた忠一郎さんは奥様の変化を見ていました。そして、ある時に親族に「あれは本当の信者だ」というようなことをおっしゃったそうです(決してご本人にはおっしゃらなかったようですが…)。それはすごい告白です。そして、時には使徒行伝16章の「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます」というみことばの部分を表にしてみことばカレンダーを開いていたこともあったそうです。「僕は信じるよ！」と素直におっしゃることが照れ臭かったのかもしれませんが、彼なりの信仰の表明だったの「かも」しれません。「かも」としか言えないようなギリギリの表現なのですが、そばにおられた清枝さんははっきりと信仰を持っていることを理解されていたとのことです。私も筆談だけのお導きでしたが、言葉に出せなくなってしまってからなので、本当に心もとないですが、主にあって彼の信仰を確信しています！ハレルヤ！